

(英語版)

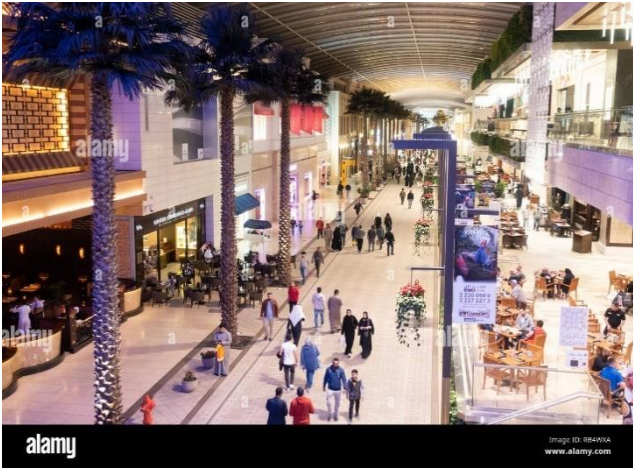
(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年(九十)

第四章・中東の戦争と平和(四)

九十 平穏な市民生活に忍び寄る長期独裁政権の影(一一三)



第四次中東戦争が終わりほっとしたのはエジプトとイスラエルの両国民だけではない。長年住み慣れた父祖の地を追われてヨルダンに逃れ、さらに東のクウェイト或いはサウジアラビアへと移って行ったパレスチナ人たちも気持ちは同じであった。

クウェイトとサウジアラビアの中間地帯で石油開発に乗り出した日本企業に就職したシャテイーラは遠縁のパレスチナ女性と結婚、忙しいが平和な日々を送っていた。彼は週末になると妻を伴い中古のアメリカ車を運転してクウェイトに住む両親のもとを訪ねるのであった。国境を越えてしばらくは未舗装の凸凹道であったが、ブルガン油田地帯に入るあたりからは片側二車線の快適な舗装道路がクウェイト市内まで真っ直ぐに続いていた。父親の家に着くとシャテイーラは必ず隣家のアル・ヤーシン家を訪ねる。二つの家族はパレスチナのトゥルカムからヨルダン、さらにクウェイトへと常に行動を共にしてきた同志である。クウェイトでアル・ヤーシン家は娘を授かりラニアと命名した。シャテイーラは可愛くて利発な女の子ラニアと大の仲良しであった。

クウェイトの中心街には欧米の一流ホテルが軒を連ね、エアコンの効いたショッピ

ング・センターでは世界の有名ブランドの店が買い物客を惹きつけた。中東戦争が終わり石油ブームが到来したためである。クウェイト人も外国人も平和と豊かさを満喫し、このような生活がいつまでも続くことを願った。周辺のアラブ諸国も産油国の援助、或いは出稼ぎ者からの送金により恩恵を蒙ったのであった。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakazuyal@gmail.com](mailto:Arehakazuyal@gmail.com)